

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203245		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい草津		
所在地	〒733-0863 広島市西区草津南一丁目6番12号 082-510-4622		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=34
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月1日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

民家改造型グループホームで、懐かしい馴染みのある建物です。事業所の隣には広い公園があり、気分転換と歩行機能維持のため、ほぼ毎日散歩に出かけています。お誕生日会や季節ごとの行事を計画し、皆様に楽しんで頂いています。日々の生活の中で役割りを持って頂き、今できる事が継続できるよう関わり、生活の中で主体的に選択できる場面を心掛けています。法人として、各事業所での看取りに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域に溶け込んでいる当事業所は、白っぽい塀に囲まれた民家改造型で、利用者にとっては馴染みある、自宅にも似た建物で、暖かみを感じられる。利用者は天気のよい日は、一日に何度でも隣にある、ゆったりした緑の多い公園を散歩し、季節の木々を鑑賞している。近隣住民とも顔見知りで、地域の様々な行事にはよく誘いを受け、出来る限り参加している。職員は、同じグループ内での移動は有るが、比較的早く利用者とうち解け、時には職員が子供を連れて出勤し、利用者も喜んで、共に一日を過ごすことがある。管理者は常に支援の在り方を摸索しながら、サービスの向上を目指し、日々の支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設当初より理念を掲げ、各事業所ごとに目標をたて、取り組んでいる。毎朝、申し送り時に唱和し、共有に努め、日々の現場での実践に活かせるよう努力している。	母体の会社理念である「利用者の意思や能力を尊重する・家庭的な環境の生活スタイル・地域に密着したホーム」等を、職員は理解しながら、実践に繋げる努力が伺える。又、毎年恒例である新年の互礼会で、研修に参加し、理念に基づいて支援する意義を確認しながら、管理者と共に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会に参加している。町内会の掃除や祭り・とんど・餅つきなどに参加し、地域の方々と交流している。	事業所は、地域の中のグループホームで有る事を目指し、町内での行事に積極的に参加し、日常的に、隣にある公園に散歩に出掛け、その際に出会う地域の住民や、近隣の幼稚園児と会話をする等交流している。更に、管理者は町内の会議等に出席して、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の総会などで質問を受けた場合は、お応えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所での行事や状況をお伝えしている。町内会の行事予定などをお聞きし、参加の予定を組んでいる。	会議は、2か月に1度行われている。常に利用者の誰かが出席している。会議の内容は、事業所内での行事報告に留まらず、出来るだけ運営に関する情報も公開するように努めている。参加者の町内会長から、季節の行事への参加を常に誘ってもらい、参加を契機にサービスの向上に活かす取組みがある。	会議の出席者は日程の問題も有り、市町（地域包括支援センター）や家族の出席が困難な場合もあるが、前回の開催より、解決に向けて努力している。今後も更に、管理者と職員により、参加を促す等の取組みに期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護受給者の方についての連絡を行っている。2ユニット化に向けて、代表者と市担当者との連絡が行われている。	関係の市町の担当者とは、定期的に連絡や報告を行っている。更に母体の代表者は新たな事業（2ユニット化）の取組みの為、常に市町担当者と連絡を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束排除宣言を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。マニュアルをもとに研修を行い、理解を深めている。昼間は玄関を施錠せず開放している。食事用エプロンの着用を控え、必要時は食前に着用して頂いている。「待つて」の声掛けも拘束と、捉え対応している。</p>	<p>日中は、全てのドアは施錠せず、自由に行き来している。夜間対応もセンサー等は使用せず、利用者の物音に耳を傾け、直ぐに支援出来る体制がある。更に、日常の会話の中でもスピーチロック等にも気を付け、不適切なケアにならないよう取り組んでいる。研修も定期的に行い、理解に繋げている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修により、徹底を図っている。職員同士で注意し合い、虐待が見過ごされる事のないよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修で、制度を学ぶ機会を作っている。月2回の管理者会議で話し合い、必要であれば、関係機関への相談を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、契約書・重要事項説明書についてもわかりやすく説明し、納得して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時に、ご家族より要望や意見を伺っている。玄関に意見箱を設置し、直接言いにくいことを伝えられるようにしている。施設代表者に、連絡される方もある。改善すべきことや、気を付ける事など、管理者会議で話し合い、現場の運営に活かしている。</p>	<p>家族からの意見や要望は、事業所の管理者や職員に留まらず、代表者にも気軽に意見を述べられる。来訪時に話を聞く場合もあるが、来所されない家族には、電話や手紙等で意見を聞き、会議等で話し合い運営に反映させるよう努力されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時や、事業所のミーティングにて意見を聞いている。月2回の管理者会議で議題にあげて検討している。	日常の運営での気付きでは、レンジやガス台の修理、利用者が使用するイスの形状の選択、食器の色彩等で改善した食事支援等、職員からの提案の反映や、又、会議を通して、勤務時間帯、記録方法の変更等、意見を聴く機会を設け反映に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得のために、勤務時間の調整を行っている。家庭の事情の変化等に対応し、申出があれば、勤務時間等考慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格の取得、社内外研修へ参加等を奨励している。参加にともない、勤務の調整を行うなどの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者によるセミナーなど、機会があれば参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に、本人に関する要望等について面接や見学時にお聴きし、入居後も不安や心配事を言葉や表情などからくみ取り、安心して過ごして頂ける環境と、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前に、家族等との面接や見学時に要望や不安なこと、困ったことなど家族等からお聴きし、対応しながら、入居にあたっての準備を共に進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅の希望があれば、デイサービスやショートステイの説明なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共生する事を念頭に、食事作りや片付け、掃除・洗濯など一緒に行っている。料理の味付けや盛り付けなどを教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	事業所での様子を面会時や手紙でお伝えしている。困り事など相談し、一緒に考え対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前からの係りつけ医へ、引き続き希望があればそのまま通院して頂いている。希望がない場合は、ホームドクターにお願いしている。美容院や理容院など、馴染みのところにお連れしている。	日常の散歩で知り合った近所の方と、会話を通して親しくなり、通院先では入院中に知り合った方や看護師と顔見知りになり、声を掛けて貰っている。馴染みの美容室へ出掛けたり、希望すれば車で迎えに来て貰える間柄で、職員は途切れない関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の相性を考え、テーブルの席を決めている。食材の皮むきや、味付け・盛り付けや洗濯など、できる事にそれぞれ関わって頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設への転居時には、本人や家族が困らないよう、情報提供や物品に協力している。相談がある場合は、いつでも受けられる事を伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前面接や入居時に、本人と家族から意向、希望を聴き、アセスメントし、計画に役立てている。聴取困難な場合は、表情や声のトーンなどから、意向の把握に努めている。	利用開始時に聴き取った、思いや暮らし方を把握しながら、支援に努めている。利用者一人ひとりの希望が有れば、生活日誌や申し送りノート等で確認し、チームで支援している。又、希望等困難な場合は、管理者や代表に相談し、ニーズに応えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前より、本人や家族・ケアマネジャー・病院の関係者から、できる限りの情報を収集し、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々を共に生活する中で、体調や一日の様子や作業内容などを記録し、申し送りをし、全職員が把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>申し送り時や、ミーティング時に話し合い、家族の面会時に意見を求める等行いながら、プランを作成し、モニタリングを行っている。</p>	<p>利用者一人ひとりの有する能力を大切に、本人、家族の要望を聞き取り、担当者やケアマネージャーは、医療面は勿論の事、介護に於いても、必要な関係者と共にモニタリング、評価を行いながら、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個々の記録に、様子や職員の気付きを記録し、プランにつなげている。大事なことは、申し送りノートに記録し、漏れのないよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院時に、家族の付添いが困難な場合、職員が付添い、対応している。入院時も、洗濯物を届けるなどしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会に加入している。町内会の掃除や行事など、入居者と共に参加している。近所の方々との交流を図りながら、それぞれの力が発揮できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の主治医を希望される場合は、そのまま継続している。受診時には事業所での様子を家族に伝えている。入院治療が必要な場合は、主治医の紹介を受け、適切な病院へ入院して頂いている。</p>	<p>かかりつけ医の往診は週2回行われている。何か有れば、適切な医療機関へ入院出来る体制は確保されている。又、家族と共に通院の場合は、職員は利用者の平素の様子を伝え、受診後は医師の意見を家族から聞き取り、適切な支援が出来る様取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃の様子を毎日報告している。発熱などの体調不良時や、いつもと様子が違う時などは、すぐに伝え対応し、必要時には受診している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には職員が付添い、様子を伝えている。ほぼ、毎日面会に行き、洗濯や必要時には食事介助を行っている。医師や看護師から経過を伺っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に看取りまで行う事を説明している。重度化した場合、本人や家族の意向を確認し、主治医や看護師と連携して対応している。</p>	<p>利用開始時に看取りの説明を行い、同意を得ている。平素から家族の意向を確認し、重度化した場合は、医療及び介護共に方針を共有し、支援に取り組んでいる。研修は年1度行い、看取りの経験者が講師となり、実践に基づいた内容を研修に盛り込み、チームで支援する体制に生かして、取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時対応マニュアルを作成している。毎年、研修で事故発生時の対応を学んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を年2回行っている。災害時用の水を準備している。地域の方々とは、総会で話す程度で、協定は締結していない。</p>	<p>避難訓練は、夜間想定も含め行われており、訓練は利用者も参加している。有事に駆けつける為の、緊急連絡網の見直し等、昨年からの課題は有るが、更に話し合う必要性を認識し、今後繋げるよう努力されている。</p>	<p>事業所内での避難訓練は行われているが、今後は、備蓄や地域との協力関係を見直し、地域に求めるだけでなく、地域と共に何が出来るか等の課題について、更なる取り組みに期待する。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	失禁時には、さりげなく居室や、浴室へお連れするなどの配慮をしている。呼名は苗字や名前で行い、会話も丁寧な言葉を遣いを心掛けている。	入浴時や排泄支援時のプライバシー保護は、常に意識しながら行われている。部屋の名札は模様で表したり、利用者の入院先等は口外しないようしている。又、利用者に対しての呼び掛けも、家族等に不快な思いをさせないように、管理者が手本となり対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	飲み物の種類や散歩のコース、手作業などの、選べる場面を設定し、自分で決める事ができる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所での一日の流れは、ほぼ決まっているが、その中で、利用者の希望を聞きながら、散歩に出かける、テレビを観る、作業する等、それぞれに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日頃より、その人らしい服装で過ごせるよう支援している。外出時には、お化粧などおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の行事やお誕生日用の食事など、いつもと違うメニューで楽しんで頂いている。毎日の献立は決まっているが、希望で変更する場合もある。皮むき、味付け、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。	日々の食事は、一か月単位で運営母体の栄養士がメニューを決めている。主な食材はレシピと共に事業所に届き、利用者と共に作っている。時には、近くのレストランで食事をしたり、隣の公園にお弁当を持参して楽しんでいる。平素の食事環境にも気を配り、イス等の座位にも気を付け、座布団を使ったり、踏み台等を利用して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	毎食の摂取量や、召し上がる様子を観察 し、記録している。体調が悪く食事が進 まない時は、代替品をお出ししたり、延 食するなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	食前は嚥下予防体操を行い、誤嚥の予防 に努めている。毎食後、口腔ケアを行 い、自力でできない方は、介助してい る。義歯は就寝前にはずし、消毒液に浸 している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	ベッドサイドにポータブルトイレを設置 し、トイレでの排泄に心掛けている。定 期的にトイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンについ て、日頃より気を配り、尿意を感じてト イレに行くまでの時間が上手く合わず、 失敗する利用者には、時間の間隔等を把 握し、パットは使用せず、夜間はポータ ブルトイレで対応し、自立に向けた支援 を行う取り組みがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりに合わせ、工夫し、早朝に牛 乳や白湯を飲んで頂いたり、散歩など の運動を心がけ、腹部のマッサージなど必 要時行っている。下剤服用時には、 150ml～200mlの白湯を摂取して頂いてい る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	午後のおやつ前後から夕食までに、体調 や気分に合わせて入浴して頂いている。 洗髪、洗体など、できない所を介助して いる。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯を 楽しんで頂いている。	入浴は、週3回、午後から行っている。 服の着脱時には浴室等をしっかり暖め、 スムーズに入浴出来るよう気配りを行 い、更には、打ち身等見逃さないよう観 察している。入浴拒否等、困難な場合 は、日程を変更し、楽しく入浴出来るよ う、チームで取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後は1時間程度、臥床して頂いている。天気の良い日には布団を干し、定期的にシーツ交換を行い、気持ち良く眠って頂けるよう支援している。寒い日には、あんかを入れ、布団を温めるなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳や薬の説明書を読み、理解に努めている。服薬時には、必ず名前を確認し、服薬して頂いている。体調や症状の変化にも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の準備や片付け、買い物、散歩などそれぞれ職員と一緒にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物などに出掛けている。地域の行事に誘っていただき、町内会の方々と共に楽しんでいる。	日常的には、隣にある公園に好きな時間に何度でも散歩に出掛けている。希望があれば、近くのスーパーで食材や花を買い、職員と共に生け花等を楽しんでいる。ドライブも、宮島ロサービスエリアに行ったり、運営母体の他のグループホームへ遊びに行く等、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金や立替金として、買い物にでかけた時、お金を使って頂いている。その際はレジの人とのやり取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には、家族につないだり、ゆっくり話ができるよう、電話の子機を使用している。手紙の投函に付き添ったり、代わりに投函している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所内の全体が明るくなり過ぎないように、自然の明かりで過ごすよう配慮している。玄関の花やリビングの壁画など、季節を感じられるよう工夫している。トイレや浴室はわかりやすく表示している。	民家を改造した建物は、温もりが有り、日常集まる場所は、ダイニングとリビングが続いており、人の出入りが常に感じられる。又、自然の光を感じる生活を大切に、室内灯は付けっぱなしにせず、外からの光で、その日の天候を感じて貰うなど、メリハリの有る生活を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを離れた場所に置き、食堂やリビングでくつろげるようにしている。それぞれ好みの場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたダンスや鏡台、椅子を持ち込んで頂き、お部屋作りをしている。家族の写真やお好みのお花など飾り付け、居心地の良い空間作りに努めている。	居室は、畳の部屋が多く、窓は大きなはき出し窓で、光が入り、開放感があり、庭の緑が眺められる。窓はカーテンではなく、障子のはめられ、自宅にいるような心地良さが感じられる。年末には、職員と共に障子の張り替えを行う等、居心地よく過ごせるための配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差の解消を行い、できない部分は声掛けや介助をすることにより、危険なく過ごせるよう支援している。トイレや浴室をわかりやすく表示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい草津

作成日 平成29年5月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の避難対策が具体化されていない	水害・地震などの災害時、早期に安全に避難できる	災害時の具体的なマニュアルを作成する	1年
2				災害時の避難訓練を行う	〃
3	4	運営推進会議の出席者に変化がない	運営推進会議への出席者を増やす	出席された事のない家族や、行きつけの理美容院にお願いする	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。